

2022 年度業務実績報告書

提出日 2023 年 1 月 17 日

1. 職名・氏名 教授・山川 修

2. 学位 理学博士， 専門分野 物理学， 授与機関 名古屋大学， 授与年 1986 年

3. 教育活動

(1) 講義・演習・実験・実習	
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 情報科学 I (1 単位 毎年開講) 1 年生	
② 内容・ねらい 情報社会で生活するための情報リテラシー (コンピュータリテラシー, ネットワークリテラシー, メディアリテラシー) を学生一人ひとりが獲得することを目的とする。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 教科書を使っているが, 説明はできるだけ学生の身近な事柄を例に出して行うようにしている。オンラインテストによる復習, およびグループワークによる意見交換も取り入れている。	
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 複雑系科学 (2 単位 隔年開講) 1 年生	
② 内容・ねらい 近年研究が活発になってきた複雑系科学のいくつかのトピックを解説し, 物理学などの従来の科学と複雑系科学の違いを理解する。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 話が抽象的になり過ぎないように, 身近な例を入れるようにしている。また, 1 回の講義中に必ず, ビデオ映像やパソコンによるシミュレーションなど, 視覚的教材を使うことにより, 直感的な理解ができるように努めている。	
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 教養ゼミ「テレビを読もう」(1 単位 毎年開講) 1 年生	
② 内容・ねらい テレビから送られてくる「情報」を, 批判的に読む目を養う。そのため, 実際のテレビ番組 (CM, ニュース, ドラマなど) を題材にグループワーク中心の演習を行う。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 教員がクラス全員に対して行う講義形式, 少人数で行うグループワーク, 学生がクラス内に発表するクラスワーク, 課題を課外に実施するホームワーク, などの学習形態をバランス良く組み合わせて, ゼミを運営している。特にグループワークには力をいれており, 自分の意見を発表し, 他の学生の意見を聞き, その上で自分の考えを再構築するというプロセスを経て, 他の学生とインタラクションをしながら, 自分の考えをまとめるトレーニングを行っている。	
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 情報処理 E (2 単位 毎年開講) 1~4 年生	
② 内容・ねらい DTP (卓上出版) のためのパソコンソフト (Photoshop, CorelDraw) の使い方を学ぶ	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 授業中で演習を行ったことを使ってできる課題を頻繁に課し, 感覚的にこれらのソフトが使えるようになることを目指している。また, 課題は, できるだけ学生が興味引くものを選んでおり, 作成した課題はクラス内で公開し, 学生同士のピアレビューも実施し, 他の学生の作品を見て学ぶことを行っている。	

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 プログラミングD (2単位 毎年開講) 1~4年生
② 内容・ねらい Javaを使ったゲームプログラミングを学ぶ。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ゲームプログラム作成を目標に、プログラミングの基礎を学ぶ。すべての学習項目は、例題、例題の解説、例題基にした課題、すこし難しい課題、という構成になっており、順番に難易度を上げながら学習できるように工夫している。
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 教養ゼミ「幸せになろう」(1単位 毎年開講) 1~3年生
② 内容・ねらい 前半、マインドフルネス等の自分の内面を見るエクササイズを通して、自分の感情に流されず、自分を客観視し、ストレスに対処する方法を身に着ける。後半、ライフデザイン・ポートフォリオという手法を使い、大学生活で重要な点を、参加者同士が二人ペアになって探求する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 毎回、宿題を課し、日誌をつけることにより、自分の客観視をやりやすくする。また、授業の中では、グループワークを多用し、人とコミュニケーションする中で、自分を見つめる方法を獲得しやすくする。
(2)その他の教育活動 (非常勤講師)
① 当科目名 (単位数) 開講学校名 表現とコミュニケーション (2単位) のうち3コマ 関西医科大学
② 内容・ねらい 「情動的知性」(EQ)、すなわち自己理解と情動コントロール、他者理解と共感、他者や状況への対応力を、演習を通して体験的に学び、身につける。中でも看護学生として必要な感性や表現力を高め、自己コントロール力および対人対応力を向上させることを目指す。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 マインドフルネスの実習を複数実施する。初めに解説、終了後にペア、またはグループによる振り返りを行い、実習を個人の中に少しでも定着させるよう努めている。
④ 本学における業務との関連性 本学でもマインドフルネスを取り入れた教養ゼミを行っている。また、現在の研究テーマが、情動知能に着目した内発的動機づけの向上、なので、研究テーマにも沿っている。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
① 著書 『情報リテラシー』(共著), 森北出版, 2022. 『コトのデザイン 発想力を取り戻す』(共著), 春風社. 現在印刷中 『ディープ・アクティブラーニングのはじめ方』(共著), 春風社. 現在印刷中
② 学術論文 (査読有り)
③ その他の論文 (査読無し) ・ 山川修, 「ライフデザイン・ポートフォリオプログラムの学習者特性による効果の違い」, 教育システム情報学会第 47 回全国大会予稿集, pp.61-62, 2022. ・ 田中洋一, 山川修, 「大学連携で取り組む地域協働学習による情動知能の変化」, 教育システム情報学会第 47 回全国大会予稿集, pp.57-58, 2022. ・ 山川修 「社会情動的スキル向上プログラムにおける学習者特性による効果の違い」, JSiSE-TR-036-06, pp.120-126, 2022. ・ 田中洋一, 山川修, 合田美子 「変革に適応するキャリア教育の設計」, JSiSE-TR-036-07, pp.19-22, 2022.
④ 学会発表等 ・ 教育システム情報学会第 47 回全国大会, 新潟工科大, 2022 年 8 月 ・ 日本教育工学会 2022 年度秋季大会, カルッツ川崎, 2022 年 9 月
⑤ その他の公表実績 ・ 教育システム情報学会第 47 回全国大会にて, プレカンファレンスおよび企画セッション (エージェンシー育成のための社会情動的スキル) を開催
(2) 科研費等の競争的資金獲得実績
※ 「学外・学内」を分けて記載ください。 【学外】 ・ 研究分担者, 挑戦的研究 (萌芽), SEL のためのラーニングアナリティクス (代表: 多川孝央 (九州大学)), 2021~2023 年 ・ 研究分担者, 基盤研究 (B), 創発現象を捉えるための逆シミュレーションによる学習コミュニティ分析手法の構築 (代表: 多川孝央 (九州大学)), 2020~2023 年 【学内】 ・ 出版・論文投稿支援 (個人研究推進支援) 2020 年度.
(3)特許等取得
※ 「特許」、「品種登録」、「商標」等区別し、記載ください。
(4)学会活動等 ・ 教育システム情報学会 (JSiSE) 北信越支部副支部長 2021~2022 年度

5. 地域・社会貢献活動

(1)学外団体
① 国・地方公共団体等の委員会・審議会 ・福井市情報化推進会議委員
② 公開講座 ・福井県立大学公開講座 (1) 社会情動的スキルを高めるためのWS, オンライン講座, 2022年6月1日～6月29日 (2) ライフデザイン・ポートフォリオ, オンライン講座, 2022年7月6日～8月3日 (3) メディアを読もう, オンライン講座, 2022年10月19日～11月16日
③ その他 (名称、活動場所、活動期間) について記載してください。 ・徳島大学との共同開催講座, ライフデザイン・ポートフォリオを書いてみよう, オンライン講座, 2021年6月2日～6月30日

6. 大学運営への参加

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
FD 部会委員 教学 IR 部会委員
(3)学内行事への参加
(4)その他、自発的活動など